

「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【浩養小学校】

令和3年5月27日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている内容に基づく。 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	B
算数	学習指導要領第2章第3節算数における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

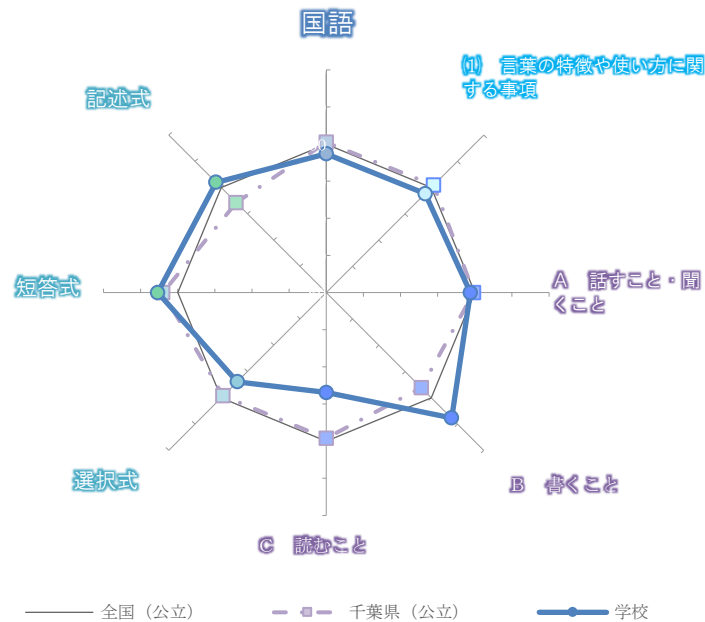
A : + 5.0%より上回っている場合「良好」

B : + 5.0%～- 5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : - 5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



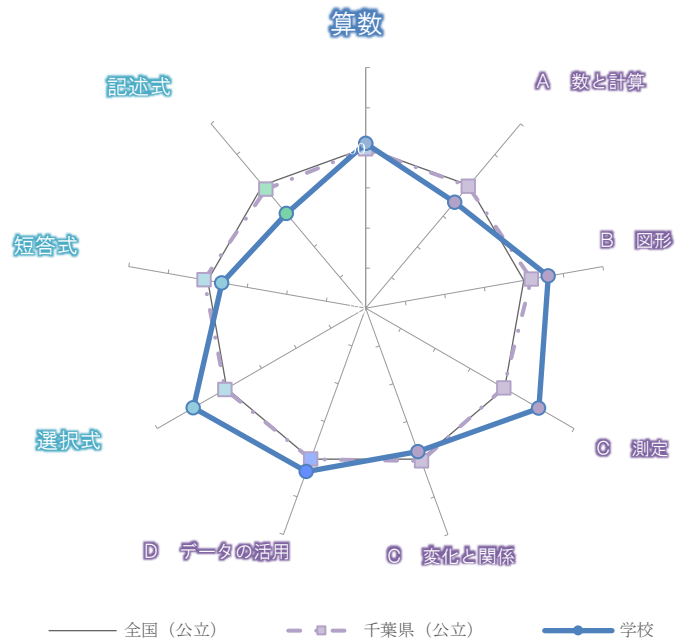
【特徴と現状】

- 国語科の全体の正答率は、全国をやや下回っています。
- 学習指導要領の内容別にみると、「知識及び技能」の「言語の特徴や使い方」については、全国よりやや下回っています。主語と述語の関係や、修飾語と被修飾語の関係の理解には、課題があります。
- 「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」は、全国とほぼ同じでした。
- 「読むこと」の領域では、正答率が下回りました。文章全体の構成をとらえ、内容の中心となる事柄を把握することに課題があります。
- 「書くこと」については全国を上回りました。特に、自分の考えが伝わるように書き表すことについて、正答率が高いという結果でした。
- 問題形式別でみると、短答式・記述式では高い正答率を示す一方で、選択式ではやや下回りました。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習などを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導してまいります。
- 物語や説明文の学習では、段落ごとの読み取りや、文書全体を要約できるように指導してまいります。
- 意見文などを書く活動では、読み手に目的や意図が伝わるかという指導に加え、タブレット端末を活用しながら資料を使って発表できるように指導してまいります。
- 「話すこと・聞くこと」については、国語科の学習だけでなく、他教科等においても適宜指導していきます。具体的には、話し手の意図を理解するための聞き方や自分が伝えたいことを端的に伝えるための話し方を継続して指導してまいります。

算 数



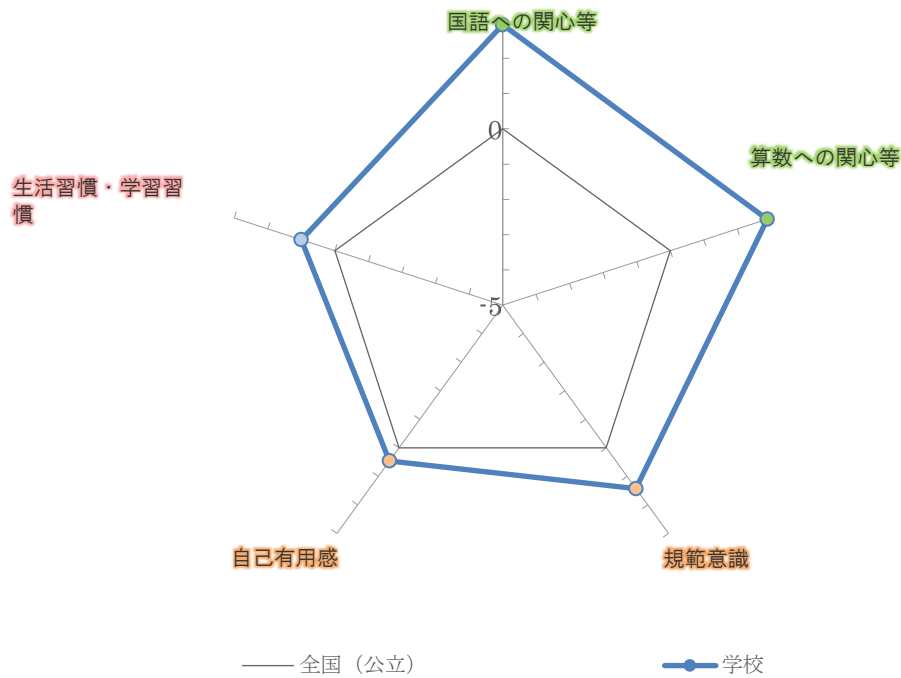
【特徴と現状】

- 算数科の全体正答率は、全国平均よりもやや上回っています。
- 学習指導要領の領域別にみると、「測定」や「図形」では高い正答率を示しています。直角三角形を組み合わせた図形の面積を求める問題については、高い正答率でした。
- 「データの活用」については、全国をやや上回りました。棒グラフから数量を読み取ることや項目間の関係を読み取ることは、正答率が100%でした。
- 「数と計算」と「変化と関係」においては、わずかに平均を下回っています。商が1より小さくなる計算に課題があります。
- 問題形式別では、選択式の正答率が高く、相対値も高い値となっています。短答式と記述式においては、やや下回っており、特に記述式については課題があります。全体的に、全国平均と比較して正答率がやや下回っています。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習などを通して、基礎・基本的な計算力が身に付くように努めてまいります。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。
- 記述式の問題に課題が見られました。思考の過程を図やグラフを活用しながら表現する方法が身に付くように指導してまいります。
- 複数のデータを比較しながら特徴を記述したり、複数の図形を組み合わせた面積を求めたりすることができるよう指導してまいります。
- 児童同士がペアやグループで考えを交流し、相互に学習を深め合う活動にも積極的に取り組んでまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 児童質問紙調査によると、全ての項目において全国の値を上回っています。学校に行くことを楽しいと回答した児童や、国語や算数の勉強が好きと回答した児童がとても多いことがわかりました。また、国語科や算数科の授業が、将来社会に出たときに役立つと回答した児童は100%でした。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」だと回答した児童が、とても多いことがわかりました。思いやりの心が育っていることがわかりました。
- 「自分には夢がありますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」という自己肯定感についての質問については、他の質問項目と比べ、やや低い値になっていました。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問についても、他の質問項目と比べやや低くなっていました。家庭学習の習慣化を図ることは課題といえます。

3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。また、授業はもちろんのこと、学校生活全般において、友達同士がお互いに認め合う雰囲気をつくれるように努め、自己肯定感を高められるようにしていきたいと思えます。

家庭での生活・学習習慣と学力に関連があるという調査結果があります。ご家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身に付けられるように、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。